

# APRS入門

JF1AJE 松澤 荘八

最近にわかに広がり始めたアマチュア無線のジャンルに、APRS (Automatic Position Reporting System) というものがあります。歴史が古いわりにはこれまであまり注目を浴びてこなかったジャンルですが、最近日本でも少しずつ運用局が増えてきました。本章では、初めてAPRSという言葉聞いた人向けにAPRSの簡単な説明と、どなたでもAPRSの運用ができるようになるまでの方法について概説します。

## 4-1 APRSとは

### ■ APRSは国際的な情報フォーマット

「ナビトラ」が国内向けのGPS情報を利用した移動体情報交換システムとすれば、APRSは同じようなことができる国際版と考えていただければ、おおむね的を射ます。



図4-1 APRSビーコンをパソコンに表示させたところ(ソフトはUI-VIEW32を使用)

APRSは最近始まった新しいジャンルではなく、発祥は米国で1990年代初頭から開発が始まりました。その後、全世界に広がり、とくに欧米では盛んで常に数千局以上が情報のやりとりを行っています(図4-1)。

「ナビトラ」システムが多くの日本のアマチュア無線家によって支えられ発展してきた日本においては、APRSは隠れた存在となり、最近までその運用局は限られていました。以前から運用している局の数はほんの一握りで、アマチュア無線界において日本は珍局に属するほどアクティビティが低い状態が続きました。

APRSを簡単に表現すると、

- ①『世界中』の『陸上、海上、上空の固定局・移動局』が
- ②『無線(含衛星通信)やインターネットを媒体』として
- ③『位置座標付情報の交換』を行う

システムとすることができます(音声による交信はできない)。

無線区間はブロードキャスト型のアマチュア・パケット通信で、当初は1200 bpsの無線パケット通信のみでネットワーク構成されていましたが、その後インターネット・ゲートウェイ(IGATE)機能が開発され、世界中のAPRS局が共通の環境で通信できるようになりました。

APRSは米国産の遊びで、専用ソフトはいずれも外国製ですが心配は無用です。日本の局同士は“ローマ字”による情報交換が主流になっています。

本章を読んでいただければ、あなたもきっとAPRS運用を開始することができます。そして日々APRSの魅力にのめりこむことを期待しています。

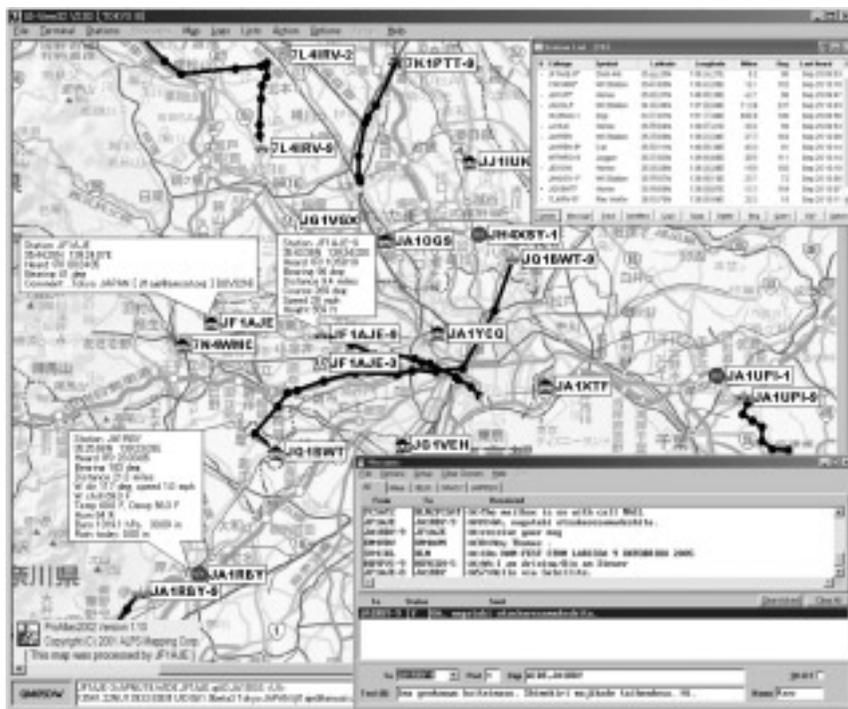


図4-2 APRS表示画面では位置情報だけでなく数十種類にもおよぶ情報の表示ができるようになっている